

「じつじもまたほえぬよ」

1年 H・Yくん

ほくがうまれてからかぞくがしんでしまったことはありません。でも人はしんだらどうなるの、とおかあさんにきいたことがあります。おかあさんは、人ほしんでもてんごくというちがうせかいで生きていてじぶんがしんでまたみんなとあえるとおもっているよとおしえてくれました。でもほくは大すきなおかあさんやかぞくがさきにしないで一人になるのは、かなしくてぜったいにいやです。だけどこの本をよんだあとたいせつな人がしんでもあいたいとおもっていたらこの中にはずつといてくれるとわかっています。ただあんしんしました。この本はかえでくんがひかった石をみつけてそのいしともだちになるおはなしです。かえでくんはおかあさんがしんでしまっただけでその石はころころがあらぬみだにかえでくんがはなしかけると、いっしょにしゃべってくれます。いしがおしゃべりをしたのはかえでくんがおかあさんにあいたいきもちがつたわって、おかあさんがいしにへんしんしてもどってきくれたんだとおもいました。

人はいつかしぬときがくるのはしっています。だからこの本をよんでほくがいましたいことをきめました。みんなといっしょにいられるあいだに大すきだよってたくさんみんなにつたえたり、おてつだいをしたり、やさしくしたりかぞくやともだちとなかよくくらしたいとおもいました。そしていつかさよならをするときがきたらほくはみんなのことをわすれないしみんなにもほくをおぼえていてほしいとおもいました。ほくのころのなかにこれからだいたいじな人をたくさんのごしてみんなにももどってきてほしいし、ほくも石になってみんなのそばにもべりたいです。おかあさんもしんでもほくを一人ぼっちにはしなないこととてんごくにいつてもなかにへんしんしてほくのそばにもどってくるよとやへそへそにこたえてくれました。